

新年を迎えて思うこと

代表取締役

澤 元 教 哲

皆さま新年明けましておめでとうございます。昨年は県指定文化財である府八幡宮の楼門全解体修理工事を無事に終わることができ、弊社にとってさらに成長させていただいた大事な事業でした。府八幡宮の幡鎌繁宮司をはじめ関係者の皆様には大変お世話になりました。

そして一月には静岡浅間神社の大歳御祖神社の屋根保存修理工事を元請として受注することができました。初めての国指定の重要文化財、身の引き締まる思いであります。これらの修復保存修理工事を通して先人たちの匠の技を目の当たりにできるため大変勉強になり、またそれをこれからの仕事や社員の技術の向上に生かしていきたいと思っております。

また忘れられないのは昨年二月に小学校の開校式でミヤンマーへ行ったことです。一一六号で龍谷

寺のご住職に原稿を書いていただいたので、ご記憶の方も多いと思います。ミヤンマーへは初めて行きましたが、ヤンゴンの車の多さと沢山の人、そして若い人が多くとても活気にあふれているのにびっくりしました。数か所の仏教寺院へ観光にいきましたが、大勢の老若男女がお参りにきており、信仰心のあつさを感じられました。一昨年の夏に龍谷寺のご住職からミヤンマーの小学校建設の話が出た時は、清水の舞台から飛び降りるつもりで寄付をしましたが、現地に行つて子供たちの笑顔を見たらそんな気持ちも吹き飛びました。ミヤンマーのザヤトウガ小学校の子ども達には、今後モ文具などの支援を行つていきたと考えております。ミヤンマーには学校へ通えない子どもまだまだいるようなので一日でも早くすべての子どもが学校へ通えるように祈るばかりです。

そして最後に私事です。社寺彫刻を営んでいる我が家の三男が結婚いたしました。京都清水寺貫主 森清範殿下の戒師のもと見性寺にて、見性寺住職のご媒酌で結婚式を行わせていただきました。相手は京都で仏師として修業し、伝統工芸士の資格を持った良き伴侶です。昨年には正光寺様に六面地藏を納めさせていただきました。仏像

の修理なども行っておりますので、仏像に関してなにかございましたらお気軽に弊社までお声をおかけください。

今年は皆様にますます信頼される会社となるために社員と協力業者の教育の充実に力をいれてきたいと思っております。また今年も引き続きアフターサービスとして、一〇年以上経過したお客様を対象に順次無料点検を行つていきます。またこれまでと同様に技術の向上とより一層のサービスを目指して社員一同頑張りますので本年もよろしくお願いいたします。



ザヤトウガ小学校の子ども達と

光珠寺様山門の完成

浜松市西区白羽町の光珠寺様（木宮邦彦住職・臨済宗妙心寺派）では山門の工事が進められていましたが、予定通り一月に完成いたしました。

駐車場から参道の入口に作られ、間口は一間半の九尺でケヤキの丸柱の薬医門になります。ご住職はじめ総代さん檀家の皆様も完成した山門を大変喜んでおられました。



光 珠 寺 様 山 門

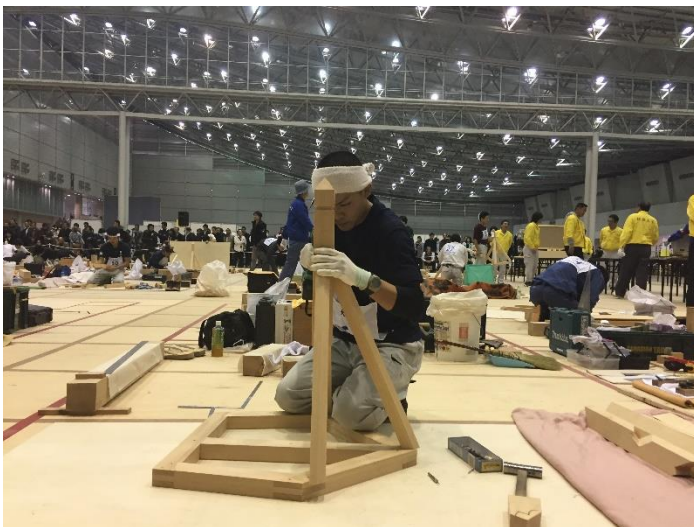
技能五輪全国大会が開催

平成二十七年一月五日・六日に千葉の幕張メッセで技能五輪全国大会が開催されました。技能五輪全国大会は正式には国際競技大会と呼ばれています。大会の目的は参加各国の青年技能者の国際交流・親善を図ることにあります。大会の起源は一九五〇年にスペインの職業青年団が提唱して隣国ポルトガルとの間で一二人の選手が技能を競ったことから始まり、日本は一九六二年の第一回から参加して毎回優秀な成績を残しています。全国大会は毎年行われていますが、国際大会は二年に一度になります。参加年齢は満二三歳以下で四五の職種で競技を行っております。

弊社でも若手教育の一環として必ず参加しており、今年も武田大将が静岡県の代表として参加させていただきました。一〇月の初め頃に課題の発表があり、それを受けて練習を開始しました。練習は朝八時から始め夜の一時過ぎまで、大会までの約二か月間必死なやっつけました。大会は二日間かけて行われ日本全国から七九名の参加者で競技が行われ、製図から始まり加工・組立と制限時間内

に完成させなければいけません。

「大会の雰囲気は飲まれそうになったが、自分なりにまずまずの出来だと思った。この二か月間のように一つのこと集中するということはとてもいい経験でした。この経験はこれからの自分を後押ししてくれると思う。この経験を日々の仕事の中に生かしていきたい。」



武田大将は入社三年目、九州の熊本県立球磨工業高校・伝統建築専攻科出身で今は弊社で修業中ですが、今回この大会を経験してこれから一人前の宮大工になるという覚悟を新たにしました。

「葬送儀礼」

日本テンプレヴァン(株)井上拓郎

「ネットで僧侶派遣」

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。「年明けから明るい話題を」と思っておりましたが、昨年末に今後の宗教界を揺るがすかもしれないニュースがありましたので、皆様にお伝えしたいと思います。

昨年の一二月八日にインターネット通販会社大手「Amazon(アマゾン)」が、通販システムで僧侶の派遣を始めるという発表がありました。その名も「お坊さん便」。アマゾンの事をご存じない方の為に、簡単にどういった会社か説明しますと、本社はアメリカのシアトルにあるインターネット通販の会社で、2014年度の日本での売上高が七九億一二〇〇万ドル(その年の為替レートの平均値一〇五円で計算すると、日本円にして8300億円の売上高です)。扱っている商品は、本や家電などから日常生活品など幅広く、仏壇、仏具や盆提灯、数珠などの取扱もあります。そんなアマゾンの日本法人がアマゾンジャパンです。

このアマゾンジャパンが昨年末に、お坊さんをワンクリックで注文できるサービスを始めました。ちなみに菩提寺が無い方を

対象とし、四十九日法要や一周忌などの法事に僧侶を派遣し、読経をおこなうそうでは、クレジットカード決済も可能で、三五〇〇〇円です。過去にもイオンが葬儀の受託や、定額化したお布施で僧侶の派遣もおこなうと発表し、公益財団法人全日本仏教会から、越権行為であり宗教をビジネス化していると批判を受けました。まさに今回も同様のケースですが、世論の反応は肯定的な意見もあるようです。その意見として「お付き合いのある菩提寺が無い」、「お布施の金額が不明瞭である」、「葬儀自体にお金を掛けたくない」などの理由でサービスを利用した方がいるようです。

逆に派遣される側の僧侶も「檀家が減少し、宗教活動による収入が減ってきている」、「元々自分の寺を持っておらず、葬儀による収入が全てなので、こういったサービスは有難い」などと僧侶側からの登録も増えているそうです。

お坊さんもワンクリックで注文する時代になってしまうのかも知れませんが、勿論そうならぬよう、宗教界・仏教界で今後を見据えた、新たな独自の取り組みが必要だと思えます。本年も弊社はそんなご寺院のサポートをしていきたいと思えます。

「葬儀による苦情」

独立行政法人国民生活センターが、葬儀における苦情などの相談件数及び事例について発表致しました。平成二六年の死亡者数は一二七万三〇〇四人で、戦後最多の死亡者数でした。この死亡者数に対しまして、葬儀の件数は公正な数字の把握が出来ず明記できませんが、相談件数は七二四件で、この件数は年々増加傾向です。最近の葬儀の傾向は、直送、家族葬などのように、時間と費用をかけずに済ます方が多いようです。その中で本来は故人を見送りたい方(親戚や親しい友人)などに知らせずに葬儀を済ませてしまったり、逆に少人数で予定していたのに、大勢の参列者が訪れて、追加料金で高額になってしまったりと言ったトラブルも多く、何が葬儀に本来に必要なのか熟慮するまもなく、契約をしてしまったが為にトラブルになる事例が多いようです。こんな話を、ある寺院住職にお話したところ、「最初に菩提寺もしくは、知り合いの僧侶に相談してくれれば、そうならずに済んだかもしれないのに」と話されておりました。ご自坊で一般の方々との触れ合いの場(行事や催し)を企画し、実行されているご寺院も沢山ありますが、「まだまだお寺と一般の方との距離が近からず」なのかも知れません。

知って得する 節分・恵方巻

節分は雑節の一つで、各季節の始まりの日（立春・立夏・立秋・立冬）の前日のことで、季節を分けるところを意味しています。江戸時代以降は特に立春（毎年二月四日ころ）の前日を指す場合が多く、大寒の最後の日であるため、寒さはこの日がピークになる。一般的には「福は内、鬼は外」と声を出しながら福豆を撒いて、年の数だけ（もしくは一つ多く）豆を食べ厄除けを行う。元は宮中の行事で、季節の変わり目には邪気が（鬼）が生じると考えられており、それを追い払うための悪霊ばらいの行事がおこなわれていました。近代宮中行事が庶民に取り入れられた頃から、節分当日の夕暮れ、終の枝にイワシの頭を刺したものを戸口に立てておいたり、寺社で豆まきをしたりするようになりました。

最近ではこの節分に恵方巻という巻き寿司を食べる人が増えています。この恵方巻を節分の夜にその年の恵方に向かって無言で、願い事を思い浮かべ

ながら太巻きを丸かじり（丸かぶり）するのが習わしとされています。もともと大阪地方を中心に行われていた習慣です。この習慣も戦後には一旦廃れたようですが、土用の丑の日にウナギを食べる習慣に対抗する販売促進手段として、大阪酢商組合と大阪の海苔協同組合が戦前に行われていた「節分の丸かぶり寿司」の風習の復活を画策しました。恵方巻の恵方は陰陽師でその年の干支によって最も良いとされる方角のことです。ちなみに平成二八年の恵方は南南東になります。



恵方巻という名称は平成一〇年にセブンイレブンが全国発売にあたり、商

品名に「丸かぶり寿司 恵方巻」と採用したことにより広まったとされています。それ以前は「丸かぶり寿司」「節分の巻き寿司」「幸運巻寿司」などと呼ばれていたようです。太巻きには七種類の具材を使うとされ、その数は商売繁盛や無病息災を願った七福神に因んだもので福を巻き込むと意味づけされています。

ここ数年は主にコンビニエンスストアを中心に、スーパーマーケットなどでも盛んに宣伝活動を行ったおかげで日本全国にこの習慣が知れ渡るようになりました。株式会社ミツカン（愛知県半田市）の調査によると二〇〇九年の恵方巻の認知率は九三・八%で恵方巻を食べる



作法の認知率も七〇%と高くなっており、最近では自宅で手作りする人も増えているようです。